

**第 I 部 酒蔵建築の再生・活用研究及び
景観重要建造物指定のための歴史的建造物実測調査結果**

藤川昌樹

1 章 市街地の歴史的景観調査の概要

1-1 趣旨

本書第 I 部は、2021 年度に石岡市より筑波大学が受託した一般受託研究「石岡市歴史的及び里山景観調査研究」（課題番号 ACI03006）のうち、①酒蔵建築の再生・活用研究、②景観重要建造物指定のための歴史的建造物実測調査の成果報告であり、2015～2020 年度の成果の延長上に位置付けられるものである。

2015年度には、昭和 4 年の大火以降に主として旧水戸街道(中町通り)及び駅前の八間通りに建てられた「看板建築」の様式を持つ店舗付住宅を対象に、中町通りでの連続立面図の作成、旧吉田クツ店・旧近清書店の実測調査を行うことで、石岡の看板建築の特徴を解明するとともに、全国の看板建築の事例調査を実施して比較し、また看板建築を修理・活用するのに有効な住民参加型まちづくりファンドについての調査をおこなった。そしてこれらを踏まえ、今後の石岡のまちづくりの提案を行った。

2016年度には、中町通りを含む旧市街地（中心市街地活性化事業対象地区）全体の歴史的建造物（昭和25年以前築）の悉皆調査、大火後に復興した代表的町並の調査、まちづくりファンド創設のための調査、戸田邸の建築実測調査を実施した。そして翌年度に向けての提言を述べた。

2017年度には、2017年7月16日（日）に石岡市民会館で開催した「全国看板建築サミット」の開催支援（企画補助、シンポジウムのコーディネート、ロビーでのパネル展示等）を行ったほか、歴史まちづくりの事例調査を石川県小松市・金沢市、福井県高岡市で実施するとともに、4件の歴史的建造物（中村ラジオ店、水西酒店、中藤米店、前忠商店）の実測調査を実施した。そして、石岡市市街地での歴史まちづくりに関する提言を行った。

ここまでは石岡市の旧市街地に関する研究が中心であったが、2018年度には、旧市街地で、邸及び医院の建築の実測調査を行うとともに、筑波大学が石岡市より無償貸与をうけた大字小屋・上山集落の茅葺き古民家について、環境整備・集落におけるヒアリング調査、実測調査・改修案の作成、上山集落住民への説明、市内に現存する茅葺き古民家の悉皆調査、また2019年度に実施する茅葺き作業のための茅刈り作業とその保管を行った。

2019年度には、農村部の茅葺き保全システムについて考察するため、茅葺きの街並み・集落が保存されている例として、三ヶ所の重伝建地区（福島県大内宿・前沢集落、京都府美山町）及び重伝建地区ではない神戸市を取り上げて現地調査を行った。これらを参考に、小屋の古民家の修復データを活用しつつ、石岡市での保全システムについて検討を加えた。

2020年度には、景観重要建造物指定のための歴史的建造物実測調査を、①邸、②石岡富国社、③冷水酒造、④鴻巣邸長屋門、を対象に行い、それぞれの建築史的評価を実施した。①～③は石岡の旧市街地の内部に建つ建物だが、④は旧八郷町の農村部に残された建物である。この結果、いずれも建造物としての価値が高いことが判明した。一方で、③については、その価値の高さにも関わらず、有効に活用されていない現実も明らかとなった。

2021年度には、前年度の調査で建築的価値の高さが判明した冷水酒造の離れ及び土蔵2棟を対象に、酒蔵建築の再生・活用のための研究を実施するとともに、景観重要建造物指定のための歴史的建造物実測調査として柿岡の平家住宅を対象に行い、建築史的評価を実施した。

石岡市の旧市街地は、古代の国府以来の長い歴史が積層した重厚な都市空間を持っている。また、周辺の農村部も今でも魅力的な景観と貴重な茅葺き古民家を残している。2015年度からの7ヶ年度にわたる調査・研究を行って来たが未だその魅力の一端しか明らかにしていないであろう。さらに研究を深化させることで、より実効性のあるまちづくり・むらづくりの提案が可能となるものと思われる。今後もそのような作業を続けて行きたい。（藤川昌樹）

1-2 参加者

今年度の調査への参加者は表 1-2-1 の通りである。

表 1-2-1 参加者一覧

教員			
藤川 昌樹 教授			
学生			
呂 夢琦 (D2)	アリミナ・シャキラ (D2)	森田小百合 (M1)	李京瑾 (M1)
孫佳辰 (M1)	酒巻裕作 (M1)	井尻俊介 (M1)	徐伍華 (M1)
江原輝 (M1)	石塚隆幸 (M1)	LI YUEQI (M1)	宮下香純 (M1)
蔣錢逸凡 (M1)			

1-3 スケジュール

今年度の主要な調査等は表 1-3-1 の通りであった。

表 1-3-1 主なスケジュール一覧

日程	内容
2021 年	
6 月 20 日 (日)	石岡市街地巡検
7 月 17 日 (土)	離れ掃除 1
18 日 (日)	" 2
23 日 (金・祝)	" 3
9 月 2 日 (木)	全体打合せ
29 日 (水)	再生事例ネット調査報告会
10 月 10 日 (日)	茨城県再生事例調査
17 日 (日)	埼玉県 "
23 日 (土)	神奈川県 "
24 日 (日)	東京都 "
30・31 日 (土・日)	栃木県・福島県 "
11 月 7 日 (日)	冷水酒造ヒアリング・実測図確認
13・14 日 (土・日)	群馬県・新潟県、山梨県・長野県再生事例調査
21 日 (日)	千葉県再生事例調査
12 月 12 日 (日)	再生事例調査結果報告会 (於冷水酒造)
2022 年	

2月26日(土)	再生・活用計画の提案会(〃)
3月22日(火)	景観調査委員会での報告

2章 酒蔵建築の再生・活用研究

石岡はかつて多くの酒蔵・醤油蔵が立地する醸造都市であった。現在でも、旧市街地内部で府中誉が醸造を続けているし、冷水酒造も酒店の営業は続けている。いずれも本格的に酒造を行なった酒蔵として、現在でも敷地内には多くの酒蔵関連遺構が残されている。府中誉については主屋をはじめとする計7棟の建物が国の登録文化財に登録されているが、これまで冷水酒造の建築物はその価値が検討されてこなかった。しかし2020年度の筑波大学の調査で、離れ、土蔵(2棟)の価値が明らかにされたため、2021年度は酒蔵建築の再生・活用研究を実施することとした。提案を快諾して下さった冷水家に感謝したい。

研究内容は主として3つである。

まず、①7月に3日間をかけて離れの建築の掃除を行った。離れの建物は雨戸に板を打ち付けた状態となっており、10年以上閉ざされたままであった。内部には多くの物が置かれたままであり、床には埃がたまっていた。このため多くの物を運び出し(その多くは廃棄処分とし)、床の掃き掃除・拭き掃除を実施した。この結果、1階・2階ともに続き間の書院座敷がその魅力的な姿を現した。

次に②関東を中心とする地域での酒蔵の再生・活用事例の調査を行った。まず9月にインターネットを用いて代表的な事例をピックアップし、10月から11月にかけて、茨城県・埼玉県・神奈川県・東京都・栃木県・千葉県・群馬県・新潟県・山梨県・福島県・長野県に手分けをして向かい、それぞれの事例調査を行った。この結果については、12月12日(日)に①で綺麗になった2階の書院座敷において、冷水家の皆さんへの報告会を実施した(別紙1)。

以上を踏まえ、③冷水酒造の敷地の立地、建物の特徴に即した再生・活用計画の提案を行った。提案は、A:商業的な利用を主とした「地酒が飲める土蔵レストラン&バー」の提案、B:石岡のまつりを発信する場所としての利用を行う「お祭り文化体験で賑わうスポット」の提案、C:公共的な場の性格を持つ「他世代交流を促進する複合施設」の三種からなり、これらの提案については2月26日(土)に②と同様に離れ2階の書院座敷において、冷水貴子氏及び石岡市都市計画課の職員の皆さんに対して報告した。なお、コロナ禍であったため、オンサイト・オンラインのハイブリッド方式で報告会は実施した。

以上の成果につき、①②についてはその概要を、③についてはその全容を、3月22日(火)の景観調査委員会にて報告した(別紙2)

3章 歴史的建造物実測調査結果—T邸

3-1 調査概要

景観重要建造物指定を検討するための調査として、柿岡のT邸の実測調査を実施した。調査は次の要領で行った。

- ・日程:2021年12月27日(月)
- ・調査員:藤川昌樹、呂夢琦、アリミナ・シャキラ、李京瑾、酒巻裕作、蔣錢逸凡
- ・調査内容:配置図・平面図(主屋・書院・土蔵・門)の作成、写真撮影、所見の作成

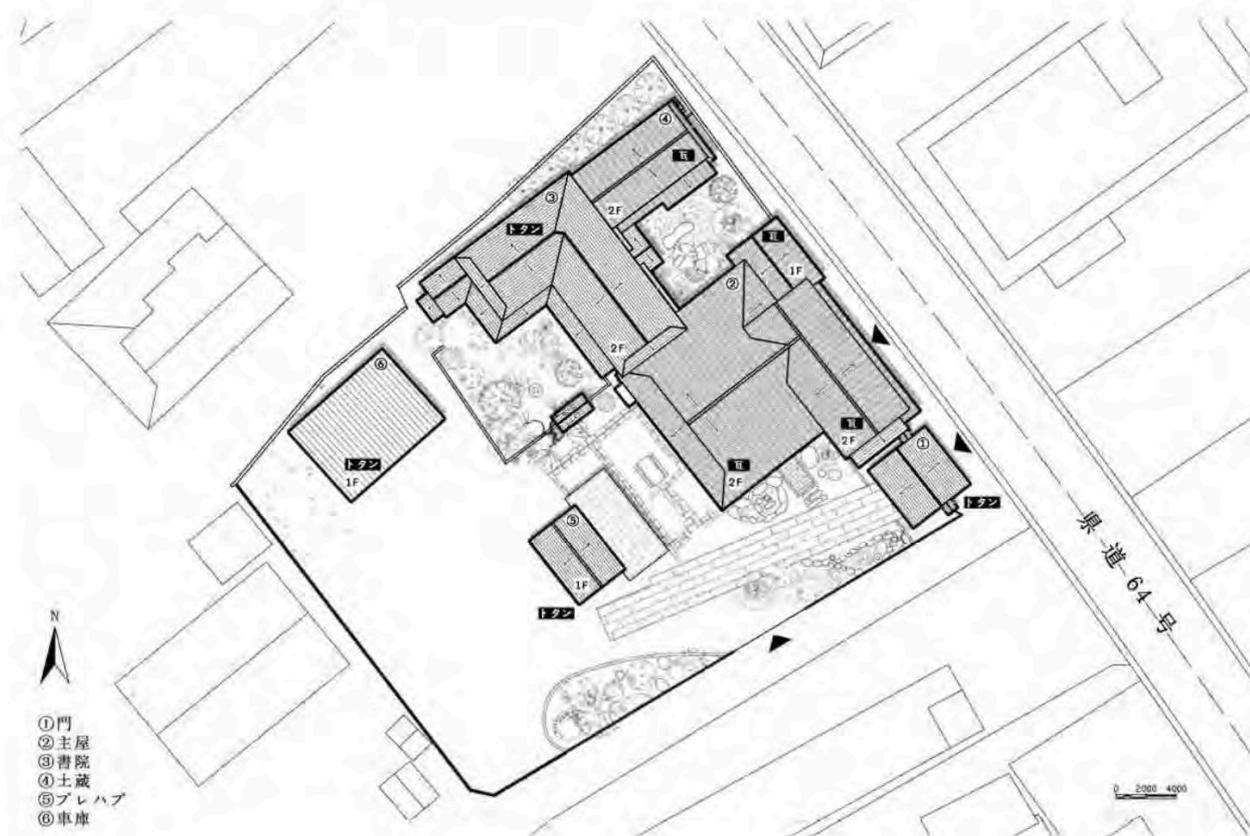
3-2 調査結果

T邸は、柿岡の旧市街地を貫く古くからの街路（現県道7号線）に面してたつ町家である。かつては、醤油の醸造を行うとともに、柿岡村長（初代・T佐之吉、二代・T寛之（佐之吉改名）、十八代・T誠一郎¹⁾）を輩出した家であり、屋号を「T」と号する。かつては多くの酒蔵が建ち並び、煉瓦造の煙突もそびえ立っていたという。

表の街路に面して主屋が、その西側（主屋に向かって右側）で道路に面して土蔵が、書院の建物は土蔵の背後にたつ。主屋の東側には道沿いに塀が続き、門がたつ。



▲屋敷正面全景（左から門・主屋・土蔵）



▲配置図

1 『八郷町誌』（pp.81-82、八郷町 1970 年）

3-2-1 主屋

固定資産税台帳によると、建築年は明治 39 年(1906)である。棟札・墨書などは発見出来なかった。以下に述べるように揚げ戸を用いるなど町家として古い要素も持っているため、同年より建設年が遡る可能性もある。

主屋は、梁間 2 間・桁行 5 間半の 2 階建てで 1 階前面に半間の下屋庇を付した店棟と、その背後に店棟と棟を直角方向にして接続する梁間 5 間半・桁行 4 間半で 1 階建ての住居棟からなる。店棟は切妻屋根で、住居棟は背後を入母屋とし、いずれも棧瓦葺きである。

店棟 1 階では、上屋・前面下屋庇境に 3 間・2 間長さの人見梁がかかる。この人見梁に沿ってかつては揚げ戸が設けられており、柱には縦溝の痕跡が残る。下屋庇の側桁は丸太の一本物で 5 間半の長さを持つ。南側の桁行方向 3 間分はかつては全て土間で、北側 2 間はもともと床が貼ってあった。ただし、下屋庇の下はかつては全て土間であった。2 階への箱階段がミセ西側に現在でも残されているが、現在では天井で塞ぎ、北側に新たに階段が作られている。

2 階は 2 室からなるが、改造が著しい。かつては職人の部屋で天井は貼っていなかったとのことである。表側はせがいで出桁を支える江戸風の町家の造りである。

住居棟には、南側に入口が設けられているが、店棟の土間からもアクセスできる。8 畳・10 畳の広さの 2 室が南側入口から並び、この 2 室の西側に中廊下が通る。さらに西側は台所・浴室・子供室が並ぶが、かつては全体が台所だったという。



▲主屋正面外観



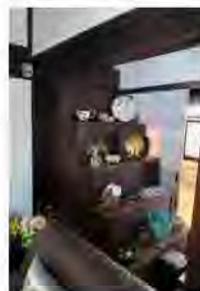
▲主屋 1 階ミセ土間



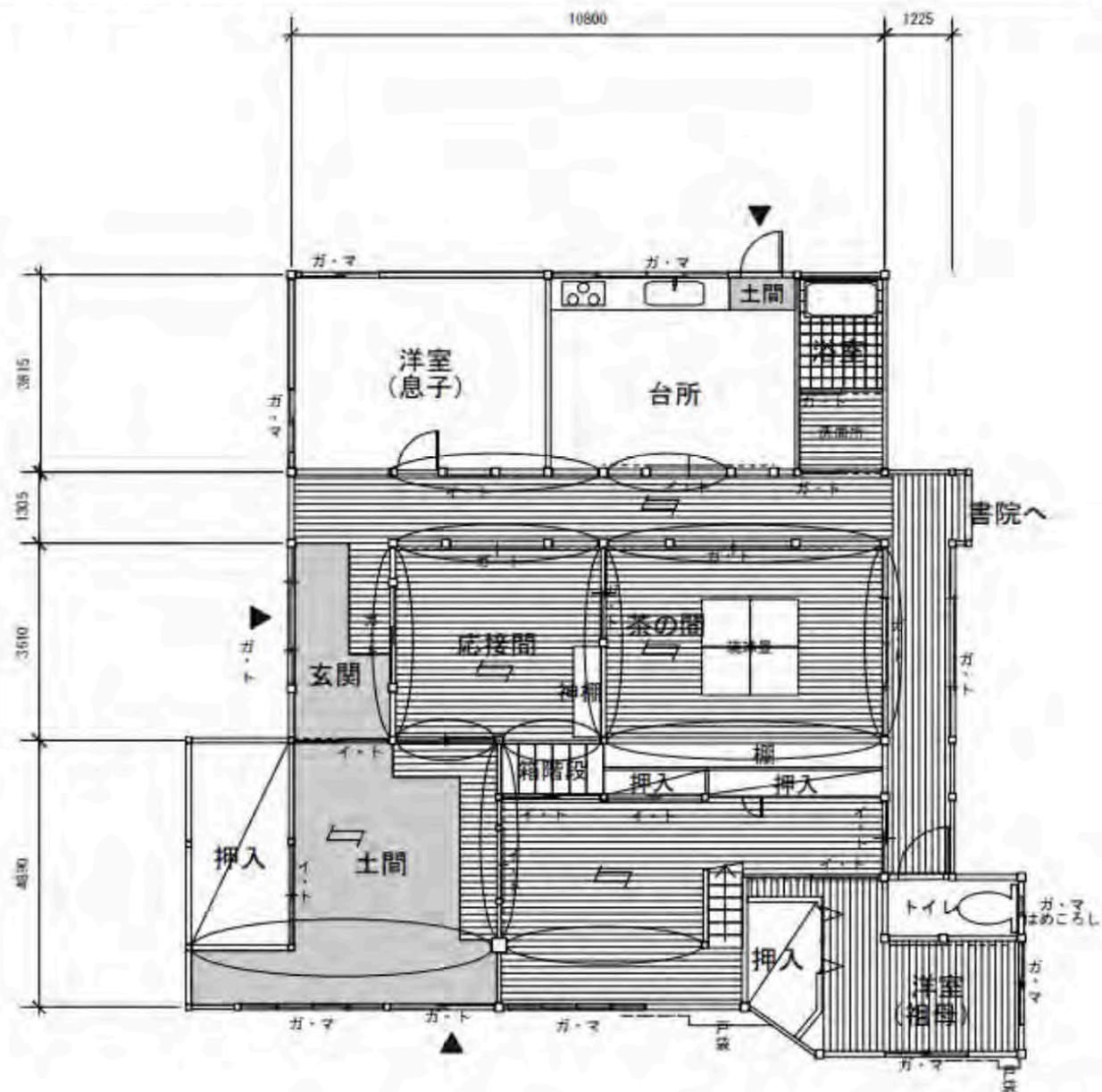
▲主屋 1 階ミセ



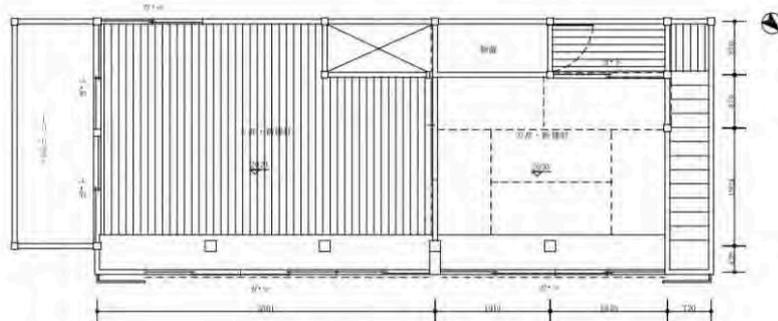
▲主屋 1 階茶の間



▲階段



▲主屋平面図 (1階)



▲主屋平面図 (2階)

3-2-2 書院

固定資産税台帳には昭和 5 年の建築とある。現主人の亡夫の祖父にあたるT誠一郎氏が建築したと伝える。床・棚・付書院・天地袋を備えた 10 畳間、8 畳、半間床・平書院を備えた 6 畳が、欄間・襖を介してL字型に連続する。この 6 畳間の南にもう 1 室の 6 畳間もあり仏間として利用されている。二つの 6 畳間の間には算笥が造り付けられている。庭に面する側の縁は、化粧屋根裏としている。

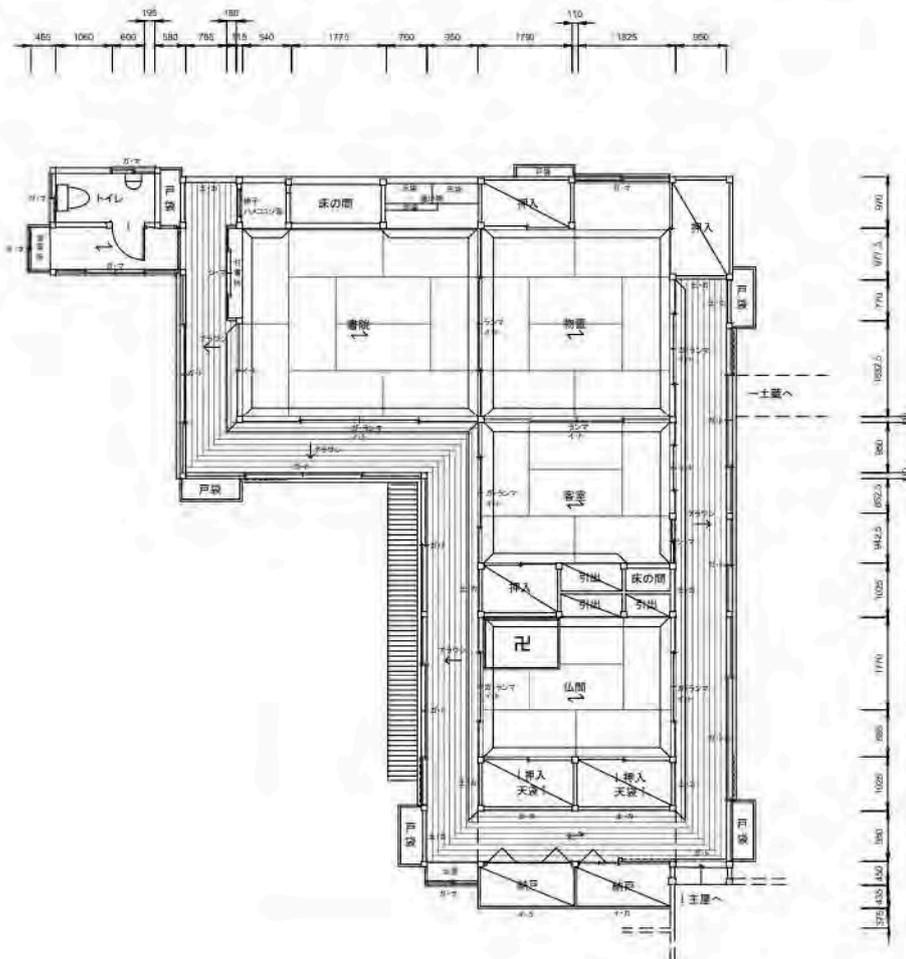
主屋・書院・土蔵に囲まれた庭園、書院の庭園の二つの庭園がこの書院の南北に設けられている。いずれにも富士山麓から運んだ溶岩が配されている。



▲書院外観



▲書院座敷



▲書院棟平面図

3-2-3 土蔵

梁間 2 間・桁行 3 間半で、2 階建て、切妻・棧瓦葺の土蔵である。1 階南平側に観音開き扉の入口、2 階東妻側に観音開き扉の窓が設けられている。和小屋で上屋梁の上に小屋梁を 1 段重ねる小屋組を持つ。梁の端部に、和釘で祈禱札の箱が釘留めされており、その外側に

神武天皇

紀元二千五百三十六年

奉納 地神加持宜御社

明治九丙子ノ

□月大吉日

茨城縣管轄常陸国新治郡

第十一大区三小区百九番地

T 本家 勘十郎と記されている。

T 勘十郎氏は、初代村長・T 佐之吉（寛之）氏の父、第十八代村長・誠一郎氏の祖父にあたる人物であり、明治 9 年(1876)に作成された祈禱札として年代的に矛盾はない。固定資産税台帳には、この土蔵も主屋と同じ明治 39 年(1906)の建築として登録されているが、明治 9 年以前にこの土蔵が建築されたことを示している。



▲土蔵外観



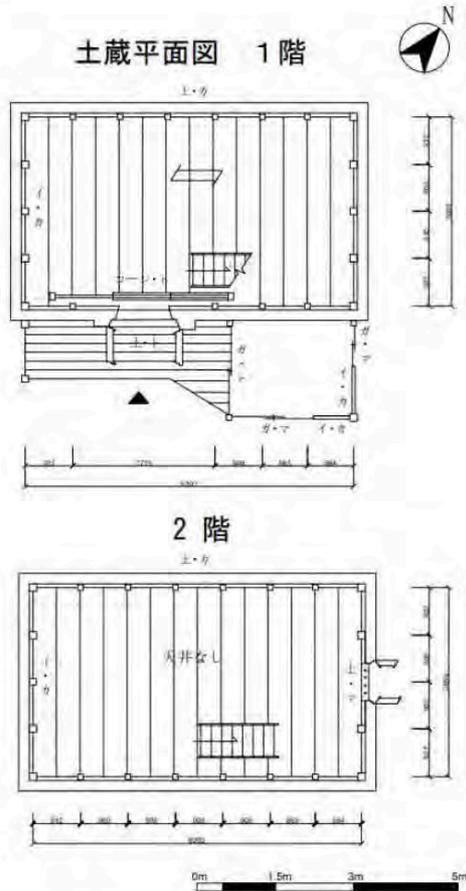
▲土蔵小屋組



▲土蔵祈禱札箱 1



▲土蔵祈禱札箱 2



▲土蔵平面図（1階） ▲土蔵平面図（2階）

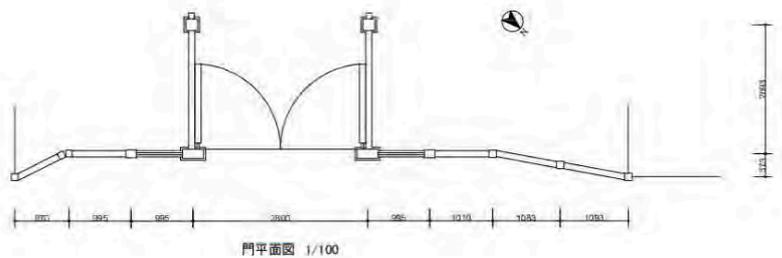
3-2-4 門

薬医門形式の門で、切妻・金属板葺きの屋根が載る。妻側には懸魚も付されている。自動車の出入りのため敷居は撤去されているが、一枚板の扉2枚は残されている。

以上のように、T邸の主屋・土蔵・書院・門は、青柳の旧道の町並み景観を構成する重要な建造物として価値が高く、景観重要建造物として指定するのが妥当であると考えられる。



▲門内側外観



▲門平面図



酒蔵再生事例調査報告



敷地内での酒造りをやめて 再生した事例





所在地



沿革

- ・江戸時代末期(天保年間)
創業 相澤酒造
- ・明治中期から大正期
醸造蔵などを整備、大規模な酒造経営展開
- ・明治28年(1895年)
大規模な醸造蔵を新設 店舗兼居宅(母屋)
- ・大正12年
赤レンガ煙突を建造
- ・昭和6年(1931)
相澤酒造廃業 大塚酒造の経営開始
- ・平成23年(2011)
大塚酒造廃業

基本情報

平面図



- 改修建物
- 新築建物

- ① 案内所・主屋
- ② 多目的ホール・本蔵
- ③ 工房・銅板蔵
- ④ ボイラー
- ⑤ 煙突
- ⑥ ガラス工房

観光交流センター秀緑・旧大塚酒造

坂東市の市街地に位置する「酒造跡地」において、明治28年建造の本蔵を代表とした歴史的建造物群と緑豊かな景観を活かし、体験型のガラス、陶芸、木工工房や、多目的ホール、文化歴史観光案内所等の「リノベーション複合施設」として誕生した。なお、本蔵および主屋については文化庁の登録有形文化財であり、貴重な建物となっております。(運営主体：坂東まちづくり株式会社)



所在地



沿革

- ・江戸時代末期(天保年間)
創業 相澤酒造
- ・明治中期から大正期
醸造蔵などを整備、大規模な酒造経営展開
- ・明治28年(1895年)
大規模な醸造蔵を新設 店舗兼居宅(母屋)
- ・大正12年
赤レンガ煙突を建造
- ・昭和6年(1931)
相澤酒造廃業 大塚酒造の経営開始
- ・平成23年(2011)
大塚酒造廃業

登録有形文化財：本蔵・主屋

本蔵 (登録有形文化財)

本蔵は明治28年、当時の相澤酒造が明治中期から大正期にかけて次々と施設整備したうちのひとつである。

現在展示スペースとなっている下屋及び多目的ホールとして活用している1階には醸造に使われる6000ℓ～8000ℓ級のタンク40基以上が並べられていた。



主屋 (登録有形文化財)

観光交流センター秀緑の案内所として活用されている主屋は、明治30年以前に建てられた店舗兼居宅であった。

1階には土間、応接間、和室、台所、風呂、階段筆筒を昇った二階にも和室が二間あった。改修に際し、建物を一度持ち上げ土台を新設後戻し、床板には酒造りに使用されていた酒樽の蓋板を用いた。酒樽の大きさを体感していただける。3mもの天井高は開放感があり、畳の縁状に組まれた格天井、棹縁井、透かし彫りの欄間など見える。





所在地



沿革

- 江戸時代末期(天保年間)
創業 相澤酒造
- 明治中期から大正期
醸造蔵などのを整備、
大規模な酒造経営展開
- 明治28年(1895年)
大規模な醸造蔵を新設
店舗兼居宅(母屋)
- 大正12年
赤レンガ煙突を建造
- 昭和6年(1931)
相澤酒造廃業
大塚酒造の経営開始
- 平成23年(2011)
大塚酒造廃業

他の保留・改修された建物

工房 (旧銅板蔵)

本蔵の西側に隣接して建つ。1階の建坪は56坪である。この建物の建築年代についての詳細は不明であり、初めて登記されたのは昭和34年である。現在、ものづくり工房として活用している。



ボイラー・煙突

シンボルマークにもなっている観光交流センター秀緑の赤レンガ煙突は大正12年11月に作られたものです。同年の関東大震災からわずか3か月後にこの赤レンガ煙突が作られ、ボイラーへの通水のために作られた水槽の壁面に「大正十二年九月一日の震災の為に日本国の失った富は只一つ国民の真面目なる努力に依って取返し得る事を記憶せよ」とあることから、この地でも何らかの被害があったものと推測される。



七ツ梅酒造跡について

敷地内の建築施設



七ツ梅酒造跡の所在

元禄7年(1694年)に近江商人の田中藤左衛門が創業した酒造である。創業以来300年の歴史を有し、県内でも1、2を競う老舗蔵元でしたが、2004年(平成16年)に廃業した。

敷地面積：約950坪

敷地内の建築施設：母屋、店蔵、煉瓦造りの精米蔵、煉瓦煙突など、合計15棟。

現在の運営主体：一般社団法人まち遺し深谷（施設の保存、運営と管理を行っている）



七ツ梅酒造跡の配置図



母屋(左 昭和8年) 店蔵(右 大正3年)



煉瓦蔵



まち遺し深谷事務所(左) 煙突(右)

七ツ梅酒造跡の利用について



経営者への貸出



経営者への貸出：12箇所

経営者の貸出は一般社団法人まちどし深谷HPにより

イベント施設の貸出



①東酒蔵 ホール
(普段はレンガ製造)

②精米蔵 ミニホール



③深谷シネマ劇場

④通路使用

イベント施設の貸出建：4箇所

七ツ梅酒造跡の施設や通路の利用について



経営者への貸出施設の利用



七ツ梅酒造跡の配置図



よろずの郷 (改修: 3年、経営: 8ヶ月)



50coffee & roastery (経営: 3年)



深谷宿本舗 (経営: 10年)



よろずの郷の内部の様子



50coffee & roasteryの内部の様子



ボックスマーケット



通路使用 (100円新鮮野菜NPC計画)



通路使用 (訪問設定の事前古い)



ギャラリー



沿革・概要

1790年：創業
 平成3年：市内に醸造所（飯豊蔵）を新築。
 従来の蔵は北方風土館として展示施設兼販売
 を行う観光蔵となった。

★江戸蔵・大正蔵・昭和蔵の三時代の蔵特性
 を活かした活用

★会津地域に特徴的な蔵座敷を地域集落に関
 する展示を行う北方風土資料館として活用

選出の理由

- ・今回見た中で施設内で、唯一酒蔵以外の用途のみで活用を行っている＝冷水さんの事例に近い。
- ・酒造蔵以外の蔵座敷なども展示館として活用している
 →酒造蔵以外の施設の活用可能性を提示
- ・建築の時代ごとの違いや味を生かした活用が興味深かったから。



位置図



東側入口・外観



西側入口・外観



敷地内の様子と施設の利用



施設配置図

①江戸蔵
 江戸期から現在にわたる酒造りの変遷について、当時利用されていた道具やその使い方などを展示。



江戸蔵（酒造りの変遷に関する展示）

②大正蔵
 元来貯蔵蔵として利用されており、光や空気を遮断する構造。→暗さと照明を利用し、シックな雰囲気を出した製品展示スペース。



大正蔵（製品展示）

④昭和蔵
 ・トラス構造による広々とした空間
 ・音の反響の良さ
 →市民も集う音楽ホール



昭和蔵（音楽ホール）

③釜場内・煙突の展示





敷地内の様子と施設の利用



- ①江戸蔵
- ②大正蔵
- ③金堀蔵
- ④昭和蔵
- ⑤テイスティング・販売
- ⑥風土館

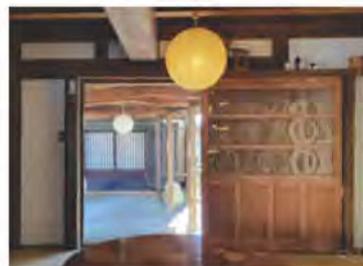
施設配置図

⑤テイスティング・販売
かつての醸造スペースを利用し、日本酒の試飲、日本酒、麹アイス、オリジナルグッズの購入が可能。



左：ショップ 右：テイスティングスペース

⑥北方風土館
会津地方、喜多方に特徴的な蔵座敷を休憩・展示スペースとして活用。地域集落に関する詳しい展示がなされている。



左上：集落に関する展示
右上：こあがり
左下：蔵入り口

群馬県桐生市 有鄰館事例調査



所在地



有鄰館 市指定重要文化財旧矢野蔵群

番号	名称	構造	建築年次	面積(m ²)	用途(矢野商店時代)
①	糠瓦蔵	糠瓦蔵(小屋木造)瓦葺平屋建	大正9年	431.10	モロミタンク貯蔵庫
②	味噌蔵	木造(土蔵)瓦葺平屋建	天保14年	149.74	味噌熟成(樽)貯蔵庫
③	醤油蔵	木造(土蔵)瓦葺平屋建	大正3年	258.41	醤油熟成貯蔵庫・醸造
④	酒蔵	木造(土蔵)瓦葺2階建	明治31年以前	84.92	原材料用塩貯蔵庫
⑤	酒蔵前室	木造(土蔵)瓦葺2階建	明治23年以前	1F 190.80	酒(樽詰め)貯蔵庫
⑥	洋酒蔵	木造(土蔵)瓦葺2階建	明治31年以前	1F 64.25	酒仕込作業室・酒備品倉庫
⑦	洋酒蔵	木造(土蔵)瓦葺2階建	明治23年以前	1F 50.31	洋酒類(仕込)貯蔵庫

番号	名称	構造	建築年次	面積(m ²)	用途(矢野商店時代)
A	仕込蔵	木造瓦葺平屋建	大正3年	211.28	原料攪拌釜の火入れ作業室
B	ビール蔵	鉄骨造鋼板瓦葺平屋建	昭和48年	267.43	ビール倉庫(1000L×1000L)
C	穀蔵	木造(土蔵)瓦葺2階建	明治22年以前	1F 99.61	原料(米、大豆、麦)貯蔵庫

矢野本店店舗及び店蔵

番号	名称	構造	建築年次	面積(m ²)	用途(矢野商店時代)
D	店舗	木造瓦葺一部2階建	大正5年	1F 258.95	店舗及び事務所
E	店蔵	木造(土蔵)瓦葺一部2階建	明治22年以前	1F 52.45	

※面積は台帳登録面積

有鄰館 建物配置図



有鄰館(矢野蔵群)は、享保2年に現在の近江商人の初代矢野左衛門が来住し、2代目久左衛門が寛延2年に現在地に店舗を構えて以来、桐生の商業に大きく貢献してきた矢野本店の蔵群の総称である。この蔵群は酒・醤油・味噌などの醸造業が営まれていた頃のたてもので、江戸時代から大正時代に建築された蔵9棟と祠社2棟が桐生市指定重要文化財になっている。



店舗・店蔵（お土産店・喫茶店）重伝建の象徴的店舗 矢野園

出桁造りで店蔵を構える店舗は、大正5年に建築された。

時代に合わせた商品提供を展開する株式会社矢野園は、近年株式会社矢野から独立したが、隣接する有鄰館は、矢野の醸造場や蔵群を矢野が桐生市に寄付したものである。矢野園には、資料的価値の高い多くの物品や絵画が保存されている。

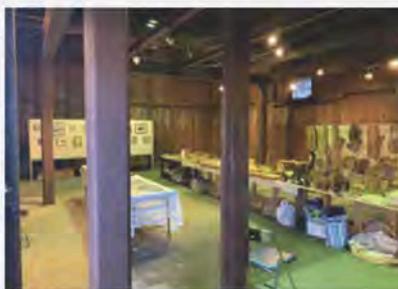
現在この店舗・店蔵はお土産を売る店・喫茶店として運営されていて、試飲・展示・販売などの様々な機能を持っている。



煉瓦蔵（市民拠点・大展示空間）

有鄰館煉瓦蔵は大正9年に建てられたモロミタンクの貯蔵庫である。この建築は桐生市内にある最も規模が大きい煉瓦建築であり、桐生市を代表する近代化遺産の一つとして注目されている。

この煉瓦蔵を含める旧矢野蔵群は、株式会社矢野から市に譲渡されたため、国土庁の「地域個性形成事業」により活用に向けて改修整備が行われた。現在この建築は定期的なイベント会場・大きな展示空間及び市民の活動拠点として活用されている。一番左の写真は煉瓦蔵で行った音楽会の写真である。



塩蔵（小展示空間）

有鄰館塩蔵は明治31年以前に建てられた原材料用塩の貯蔵庫である。この建築は、木造瓦葺平屋建ての土蔵造りで、建築面積は84.92㎡である。

現在この塩蔵は煉瓦蔵より小さい展示空間として活用されていて、美術品展覧会などの活動を行える。以上が一番右の写真は見学の時に塩蔵で行っている彫刻展である。



敷地内で酒造りを継続している事例1

敷地の一部を公開



千葉県酒々井町 飯沼本家 事例調査



所在地



- 位置 千葉県印旛郡酒々井町
- 運営主体 株式会社飯沼本家
- 江戸元禄年間(1688-1703)創業
- 売店、カフェ、ギャラリー、酒蔵、芝生広場がある
- 酒蔵見学、BBQ、フルーツ狩り、展示会などのイベント
- レストラン、ライブ会場やグランピング施設を導入予定である





飯沼本家 酒々井まがり家・まがり家ギャラリー

概要：平成6年に新潟のダム建設により水没予定だった民家を移築再生した家。

1階 売店、カフェ

売店では自社ブランドの日本酒や、民芸品等のおみやげが購入可能である。
 カフェでは、自社農園で栽培されたブルーベリーを使った麴ドリンクや軽食が提供されている。



建物の外観

2階 ギャラリー会場

2階を展示場としており、アート作品の展示やギャラリーの展示販売を行っている。
 不定期でアーティストに貸し、展覧会を開いている



飯沼本家 その他の酒蔵・建物



・平成蔵

展示、事務所、醸造所がある。
 現在はこの蔵で酒造り行われている。また、酒蔵見学も土曜限定で開催されている。



・明治蔵

木造の蔵であり、イベント会場として貸し出している



・芝生広場

BBQ、角打ちが開催されている。



・飯沼家主屋

(登録有形文化財)
 改修中で、来年にレストランを開業予定。



所在地



- 1849年創業
- 現杜氏の窪田さんで六代目
- 昭和50年代末期以降の日本酒消費量の落ち込みを期に、経営難を乗り越えるための手段として、母屋を改修したカフェの開業を決断。
- 1999年に「酒蔵権」を開業。現在カフェの経営を奥様、酒造りを窪田さんが担っている。
- 母屋1階：酒販売、ギャラリー
- 母屋2階：『酒蔵権』
- 酒蔵：童謡歌手のスタジオ

敷地内の様子と施設の利用



母屋をリノベーションするにあたっての窪田さんの信念

- ① 地域における日本酒屋が果たすべき役割を継承する
 - 「日本酒屋は地域の旦那」だから、地域の皆が活用できる場所でなければいけない。
- ② 建物の本来の用途からできるだけ外れない活用をする
 - 飲食店の開業の背景は、元々先代の奥様が冬に食事の提供を行っていたから。
- ③ コンセプトをはっきりとさせる：養老酒造の場合は「柱は日本酒屋」
 - 日本酒屋を継続するため、6代目が一時的にとった策に過ぎない、という認識。
 - 酒粕を活用したメニューに特化。余計なことはしない。
- ④ 人を呼ぶのは人。
 - 窪田さんが25歳の時に開業。最初は地域の方も来てくれなかった。
 - 奥様の丁寧な接客や店が持つ空気が人を呼び始めた。
 - 一番重要なのはその運営を行うオーナーさんがどのような思いで何をしたいのか。



山梨県山梨市北 養老酒造事例調査



『酒蔵権』：カフェレストラン。1999年開業。蔵カフェとしては先駆け。

- 元々は養蚕を行っていた屋根裏部屋で、その後は物置となっていた。
- 窓や床の補強以外はできるだけ手を付けておらず、昔行われていた養蚕の影響で黒くなった土壁は、あえてそのままにしてある。 厨房も導入されている。
- 土間から冷気が流れ込むを防ぐために、スライド式の板が階段の入口に立てかけてある。
- テーブルには木桶の蓋を活用。
- 『権コンサート』：月に一度の恒例コンサート。



新潟県長岡市 吉乃川 酒造事例調査



所在地



歴史

長岡撰田屋にある吉乃川は1548年に創業し、酒蔵としての歴史は新潟県で最も古い。
2019年10月、「知って、飲んで、買える酒ミュージアム」吉乃川「醸蔵」が誕生した。建物は大正時代に建設された築約100年となる倉庫「常倉」（国登録有形文化財）を改装したもので、かつては酒の瓶詰作業が行われていった。鉄筋コンクリート造りで、天井に鉄骨が三角形で組まれた「トラス工法」が特徴である。現在は吉乃川ファンとの繋がりを広げる場所となっている。



改装後の酒ミュージアム「醸蔵」



改装前の「常倉」





【展示コーナー】

吉乃川の歴史や、酒造りについて知ることができるコーナーで、昔のポスターやラベルなども展示されている。さらに、大型プロジェクターによる映像や、デジタルサイネージでの「酒造り体験ゲーム」もあり、子供でも楽しめる内容となっている。

【売店】

吉乃川の定番や限定販売のお酒があり、地元企業のコラボ商品やグッズなども揃えている。

【SAKEバー】

立ち飲みスタイルのバーで、1,000円で8種類の日本酒が楽しめる。

【セミナールーム】

施設内の2階にイベント時にご利用できる「セミナールーム」もあり、蔵元による日本酒講座や、料理と日本酒を楽しむ会、その他文化的なセミナー・イベントなどもここを利用して開催できる。

①展示コーナー



③売店



④SAKEバー



②酒造り体験ゲーム



⑤セミナー・イベント



敷地内で酒造りを継続している事例2 敷地の大部分を公開

東京都 小澤酒造 事例調査



所在地



経営

経営主体:

小澤酒造株式会社

事業内容:

清酒製造業、澤乃井園（売店、軽食）、蔵見学、きき酒処、ギャラリー

関連会社:

レストラン（まごど屋、いもうとや、豆らく）、櫛かんざし美術館玉堂美術館 煉瓦堂朱とんぼ

特徴

特々のツーリズムー: 現在は、醸造、観光、蔵見学、販売一体のツーリズムーの形で営んでいる。

観光開発歴史長い: 1966年、酒蔵の見学を始め；1967年、観光者向けの日本庭園風の施設「沢乃井園」を開設した。

沿革

創業は明確ではないが、1702年（元禄15年）の古文書に記録があり、以前は既に酒造業を営んでいた模様である。奥多摩の湧水から生まれた銘酒・澤乃井を筆頭に、熟成酒なども醸造している。

東京都 小澤酒造 事例調査



敷地内の様子と施設の利用



酒造入口

敷地（貨物と内部の駐車場）



①元禄蔵

創業の頃から使われている最古の蔵である。壁の厚さが30cmもある土蔵なので、外気の影響を受けにくく、貯蔵蔵として使われている。現在、200個以上のタンクと熟成酒「蔵守」を貯蔵している。



②明治蔵

明治時代に増設された蔵であり、今も醸造場として利用されている。同時に、酒つくりの米と酒桶なども展示している。



平成蔵

1994年築く。現代的な設備が備える蔵。酒造りのお米、醪をしぼる器具なども展示している。

東京都 小澤酒造 事例調査



敷地内の様子と施設の利用



③山井戸
水質はちょっと硬めの中硬水で、全長140m、200年前に掘られた横井戸である。



主屋(社長の邸宅、茅葺き屋根)



売店



④澤乃井園
多摩川の渓流のほとりに日本庭園風の植栽の中に、小澤酒造のお酒(きき酒処も)や軽食・売店コーナー、そしてレストランも併設。



川に面したあづまや



きき酒処
(1階: ギャラリー; 屋上: 駐車場)

神奈川県茅ヶ崎市 熊澤酒造事例調査



所在地



運営

主体
熊澤酒造株式会社

運営事業
カフェ、ベーカリー、日本酒・ビール製造、和・イタリアンレストラン、ギャラリー、野菜売り場など

関連サービス
地域交流拠点、結婚式、社内文化冊子提供

沿革

熊澤酒造は明治五年に創業して、日本酒を造り続けて150年で、湘南に残された、ただ一つの蔵元である。現役社長の熊澤茂吉は廃業に近かった会社に就任し、多角化な事業をとりくんでいる。



特徴

湘南唯一の蔵元: 150年で、6代目の社長を経て今まで営業されている;

製造事業と商業事業の両立: 両者はお互いに妨害せず、工場敷地内で庭を中心に、様々な事業がひろがっている;

地域特徴が強い: 湘南の味を象徴する日本酒と湘南のイメージを代表するビールがある。



古建築の利活用

- ①は江ノ電を運営する実業家の旧宅の移築である。今はイタリアンのレストランとして営業される。
- ②は元の蔵が改装されて、今はベーカリーとして営業されている。
- ③築200年以上と言われる古民家を移築したもので、カフェとして営業されている。
- ④元は酒造りに必要となる桶等を製する工芸品を展示・販売するギャラリーとして営業されている。



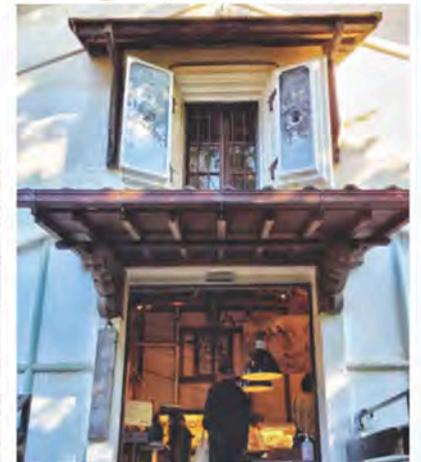
① イタリアンレストラン



④ ギャラリー



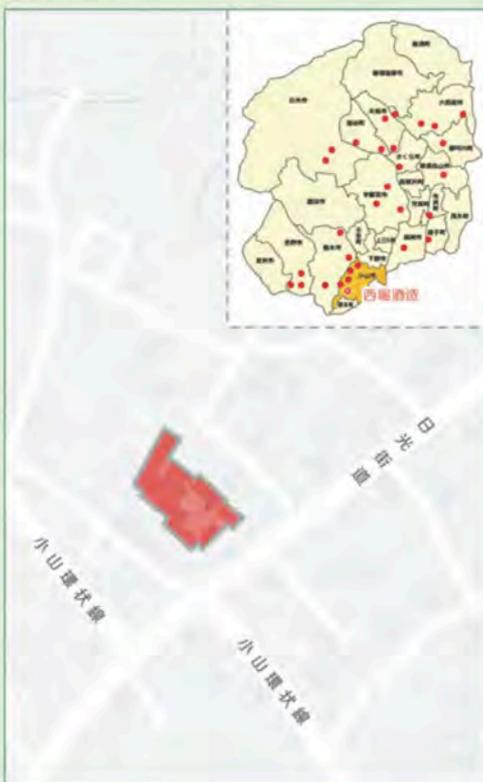
③ カフェ



② ベーカリー



所在地



基本情報



◆西堀酒造は明治五年に創業され、栃木県小山市南部の旧日光街道沿いに位置

し、県内の有名な「門外不出」のブランドを持つ老舗酒造メーカーである。

✓現存する最も古い建造物は江戸末期のもので、約3000坪の敷地内にある蔵の大半が江戸末期～大正時代の建築である。創業当時から酒蔵を現役で使用している、酒造場としては県内最大規模となっている。

✓平成20年3月、計4棟の建造物が国登録有形文化財として登録された。





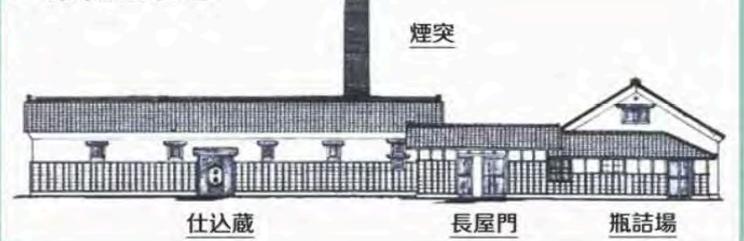
敷地内の様子と施設の利用



◀煙突（文化財）

中庭にある煉瓦造の煙突で、煉瓦は下野煉瓦製造会社の製品と伝え（つまり東京駅と同じ煉瓦を使っている）、イギリス積とする。地域のランドマークとして親しまれる。表面のひびは関東大震災によるものである。

● 東側立面図



名称	構造及び形式	建築年代	建築面積(m ²)
長屋門	木造平屋建、切妻・瓦葺	大正期	42
仕込蔵	土蔵造平屋、切妻・瓦葺	大正中期	239
ビン詰場	土蔵造2階建、切妻・瓦葺	大正期	221
煙突	煉瓦造	大正期	高さ14m



◀酒造蔵（生産用）

◀瓶詰場（文化財）

いまま使用されている。

●西堀酒造は現在も伝承技術を守るべきものを守り、同時に様々な新技术を積極的に使って酒作りをしている。



施設の利用



▼中庭（市民拠点）

酒祭りを含めて、毎年定期的にいるんなイベントを開催している。その中で一番人気の「若盛祭」には、各種公演、出店、プレゼントなど行っている。毎回千人を超える観光客が訪れる。

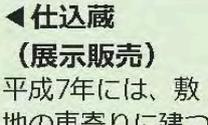


普段は主に内部駐車場や貨物置きに使われている。



▲長屋門（文化財）

現在は主に倉庫として使われている



◀仕込蔵（展示販売）

平成7年には、敷地の東寄りに建つ

土蔵造平屋建てを改造した「前蔵アンテナショップ」をオープンした。ここには酒造の各種製品と受賞証明が展示されている。蔵直売所ならではの試飲販売や、仕込み水をも堪能できる。

✓ 入口の戸の重さは100 kgである



▲酒造蔵（予定）

屋根のトタンは明治時代にイギリスから輸入されたもの、元は物置きとして使われていた、現在はウイスキー醸造用の整備が行われている

長野県県奈良井宿 旧杉野森酒造事例調査①



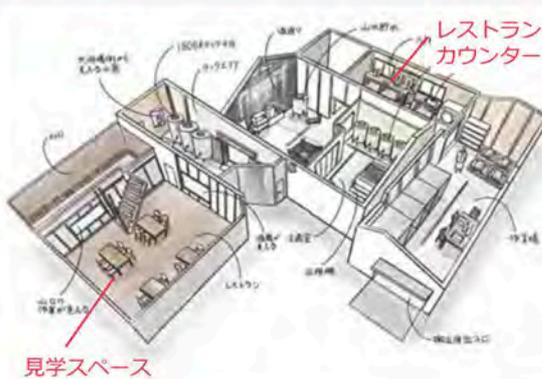
所在地

塩尻市

奈良井宿

沿革

旧杉の森酒造は母屋と離れ、蔵、酒造棟などで構成し、延べ約980平方メートル。旧民宿豊飯豊衣は延べ約350平方メートル。建物は木造中心の構造で2階建て。改修では両施設とも宿泊機能を持たせ、旧杉の森酒造は温浴施設と地産地消レストランも設ける。現在、酒造りの再興中。宿泊部屋数は杉の森が8部屋、豊飯豊衣が4部屋。事業主体は、塩尻市と竹中工務店が一般社団法人塩尻市森林公社と共に出資し設立した「株式会社ソルトターミナル」が改修。また、本計画の企画プロデュースは47PLANNINGが担当し、同社が設立した新会社「株式会社奈良井まちやど」が開業後のホテル・レストラン等の運営。



レストランカウンター

食事は、四季折々の風情を感じられる中庭を眺められるカウンターで、トーンダウンした灯りの空間で落ち着いて食事ができる空間を演出。

見学スペース



見学スペース

酒蔵施設を見学できるスペースでも食事が出来る。現在、杉の森酒造ブランド再興の酒造りを準備中。間もなく一般販売される予定。

ショットバー

蔵を利用したショットバーでカウンターは漆塗りで、飾り棚には調度品が飾られている。



長野県県奈良井宿 旧杉野森酒造事例調査②



受付エントランス

従来の土間、カウンターをそのまま、ホテルの受付、エントランスと利用している。外観は、奈良井宿の景観に合わせて、暖簾だけの落ち着いたデザイン



調度品

奈良井宿はお茶壺道中が有名で、それに纏わる欄間や建具に施されている。また、杉の森酒造の家に受け継がれきた調度品も飾り棚、掛け軸、建具としてそのまま部屋の中で利用している。



壁・家具

敢えて漆喰むき出しの壁をそのままにした利用をしている。部屋の中にある階段筆筒はそのまま利用でき、2階スペースに上がれる。



中庭・池

お部屋と隣接の中庭があり、元々は池だった場所にも庭石を敷き詰めて、庭を通って部屋へ入ることができるようにしている。部屋には広い縁側があり、ゆったりとお庭を眺めることができる。



蔵部屋

窓の無い蔵を敢えて部屋にしており、壁には黒漆で統一されている。かなり特徴があるがあるが、敢えてこの静けさを好むリピーター客がいる。



「酒蔵建築の再生・活用研究」 結果報告



筑波大学大学院社会工学学位プログラム
歴史的建造物WS
2022.3.22

- 藤川 昌樹 教授
- アリミナ・シャキラ D2
- 呂 夢琦 D2
- 森田小百合 M2
- 孫 佳辰 M1
- 李 京瑾 "
- 酒巻 裕作 "
- 井尻 俊介 "
- 徐 伍華 "
- 江原 輝 "
- 石塚 隆幸 "
- LI YUEQI "
- 宮下 香純 "
- 蔣 錢逸凡 "

協力：東北工業大学

不破正仁研究室



1

調査概要 1



- 2015年度 ・ 中町通りの連続立面図作成 ・ 実測調査2軒 (吉田クツ店・近清書店)
- 2016年度 ・ 旧市街地の歴史的建造物悉皆調査 ・ 実測調査1軒 (邸旧主屋)
- 2017年度 ・ 「全国看板建築サミット」支援 ・ 実測調査4軒 (中村ラジオ店・水酉酒店他)
・ 歴史まちづくり事例調査 (石川・富山県)
- 2018年度 ・ 実測調査2軒 (邸・ 医院) ・ 茅葺き古民家悉皆調査
・ 小屋の古民家整備事業1 (環境整備・実測調査・葺き替え用の茅刈り)
- 2019年度
庫) ・ 小屋の古民家整備 ・ 茅葺き保存集落の葺替えシステム調査 (福島・京都・兵庫)
・ 茅葺き民家の実測調査 (保科邸長屋門)
- 2020年度 ・ 小屋の古民家整備支援 (すす払い・茅葺き体験・茅刈り)
・ 景観重要建造物指定のための実測調査
(石岡富国社・冷水酒造・ 邸・鴻巣隆邸長屋門)
- 2021年度 ・ 酒蔵建築の再生・活用研究—冷水酒造の離れ・土蔵を対象にして
・ 邸の実測調査



2



2021年

主要日程

2022年

・ 6/20 石岡市街地巡検

・ 7/17 離れ掃除1

・ /18 " ①掃除
w/東北工大不破研

・ /23 " "

・ 9/ 2 全体打合せ

・ /29 再生事例ネット調査報告会

・ 10/10 茨城県再生事例調査

・ /17 埼玉県 "

・ /23 神奈川県 "

・ /24 東京都 "

・ /30・31 栃木県・福島県 "

・ 11/ 7 冷水酒造ヒアリング・実測図確認

/13・14 群馬県・新潟県

山梨県・長野県再生事例調査

/21 千葉県再生事例調査

・ 12/12 再生事例調査結果報告会 (於冷水酒造)

②再生事例の調査

～再生・活用計画案の作成～

③再生・活用計画の提案

・ 2/26 再生・活用計画の提案会 (於冷水酒造)

・ 3/22 景観調査委員会



① 離れ建築の掃除：BEFORE



10年以上雨戸が閉まっていた離れの建築

① 離れ建築の掃除：雨戸の開放



① 離れ建築の掃除：荷物の運び出し



① 離れ建築の掃除：掃き掃除・雑巾がけ



① 離れ建築の掃除





再生事例調査報告会
(2021/12/12)

再生・活用案報告会
(2022/2/26)





敷地内での酒造りをやめて再生した事例



埼玉県深谷市 七ツ梅酒造跡 酒造事例調査



七ツ梅酒造跡について



七ツ梅酒造跡の所在

元禄7年(1694年)に近江商人の田中藤左衛門が創業した酒造である。創業以来300年の歴史を有し、県内でも1、2を競う老舗蔵元でしたが、2004年(平成16年)に廃業した。

敷地面積：約950坪

敷地内の建築施設：母屋、店蔵、煉瓦造りの精米蔵、煉瓦煙突など、合計15棟。

現在の運営主体：一般社団法人まち道し深谷（施設の保存、運営と管理を行っている）

敷地内の建築施設



七ツ梅酒造跡の配置図



母屋(左 昭和8年) 店蔵(右 大正3年)



煉瓦蔵



まち道し深谷事務所(左) 煙突(右)

① セツメイ酒造跡の利用について



① 経営者への貸出



⑫ 施設の配置と経営者の利用図

⑬ 経営者への貸出：12箇所

⑭ 経営者の貸出は一般社団法人まち直し深谷HPにより

① イベント施設の貸出



② ①東酒蔵 ホール
③ (普段はレンガ製造)

②精米蔵 ミニホール



④ ③深谷シネマ劇場

あ④通路使用

⑤ イベント施設の貸出建：4箇所

セツメイ酒造跡の施設や通路の利用について



経営者への貸出施設の利用



セツメイ酒造跡の配置図



よろずの郷 (改修: 3年、経営: 8ヶ月)



50coffee & roastery (経営: 3年)



深谷宿本舗 (経営: 10年)



よろずの郷の内部の様子



50coffee & roasteryの内部の様子



ボックスマーケット



通路使用 (100円新鮮野菜NPO計画)



通路使用 (期間限定の手相占い)



ギャラリー



敷地内で酒造りを継続している事例 1

敷地の一部を公開

山梨県山梨市北 養老酒造事例調査



所在地



- 1849年創業
- 現社氏の窪田さんで六代目
- 昭和50年代末期以降の日本酒消費量の落ち込みを期に、経営難を乗り越えるための手段として、母屋を改修したカフェの開業を決断。
- 1999年に「酒蔵権」を開業。現在カフェの経営を奥様、酒造りを窪田さんが担っている。
- 母屋1階：酒販売、ギャラリー
- 母屋2階：『酒蔵権』
- 酒蔵：童謡歌手のスタジオ

敷地内の様子と施設の利用





母屋をリノベーションするにあたっての窪田さんの信念

- ①地域における日本酒屋が果たすべき役割を継承する
 - ・「日本酒屋は地域の旦那」だから、地域の皆が活用できる場所でなければいけない。
- ②建物の本来の用途からできるだけ外れない活用をする
 - ・飲食店の開業の背景は、元々先代の奥様が冬に食事の提供を行っていたから。
- ③コンセプトをはっきりとさせる：養老酒造の場合は「柱は日本酒屋」
 - ・日本酒屋を継続するため、6代目が一時的にとった策に過ぎない、という認識。
 - ・酒粕を活用したメニューに特化。余計なことはしない。
- ④人を呼ぶのは人。
 - ・窪田さんが25歳の時に開業。最初は地域の方も来てくれなかった。
 - ・奥様の丁寧な接客や店が持つ空気が人を呼び始めた。
 - ・一番重要なのはその運営を行うオーナーさんがどのような思いで何をしたいのか。



『酒蔵權』：カフェレストラン。1999年開業。蔵カフェとしては先駆け。

- ・元々は養蚕を行っていた屋根裏部屋で、その後は物置となっていた。
- ・窓や床の補強以外はできるだけ手を付けておらず、昔行われていた養蚕の影響で黒くなった土壁は、あえてそのままにしてある。厨房も導入されている。
- ・土間から冷気が流れ込むのを防ぐために、スライド式の板が階段の入口に立てかけてある。
- ・テーブルには木桶の蓋を活用。
- ・『權コンサート』：月に一度の恒例コンサート。





受付エントランス
従来の土間、カウンターをそのまま、ホテルの受付、エントランスと利用している。外観は、奈良井宿の景観に合わせて、暖簾だけの落ち着いたデザイン



ショットバー
蔵を利用したショットバーでカウンターは漆塗りで、飾り棚には調度品が飾られている。



壁
敢えて漆喰むき出しの壁をそのままにした利用をしている。



温浴施設
信濃川の源流である山の湧き水を利用した温浴施設。日帰り入浴の利用もできる。



照明
もともとあった『杉の森酒造』時代にあった斗瓶をレストランの証明に利用



調度品
奈良井宿はお茶壺道中が有名で、それに纏わる欄間や建具に施されている。また、杉の森酒造の家に受け継がれた調度品も飾り棚、掛け軸、建具としてそのまま部屋の中で利用している。



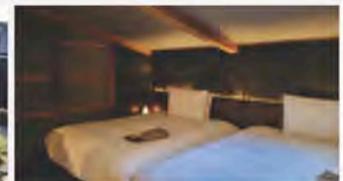
客室
客室は全12室。梁が露わになっている部屋、中庭を望む部屋、天井高の部屋など、それぞれに異なった個性豊かな趣きがある。



家具
部屋の中にある階段箆筒はそのまま利用でき、2階スペースに上がれる。



中庭・池
お部屋と隣接の中庭があり、元々は池だった場所にも庭石を敷き詰めて、庭を通過して部屋へ入ることができるようになっている。部屋には広い縁側があり、ゆったりとお庭を眺めることができる。

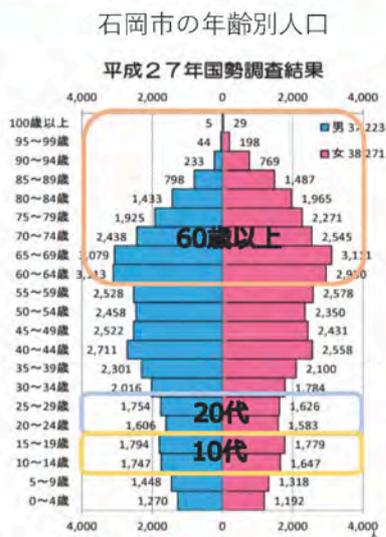


蔵部屋
窓の無い蔵を敢えて部屋にしており、壁には黒漆で統一されている。かなり特徴があるがあるが、敢えてこの静けさを好むリピーター客がいる。



冷水酒造及び離れ 活用案報告会

冷水酒造再生計画 背景



石岡の現状

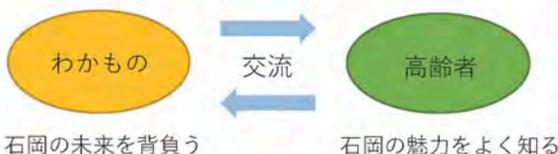
- ・ 高齢化問題が深刻化している
- ・ 若い人達が石岡のまちに対する関心が薄れている
- ・ まちの活気を失いつつある

石岡の魅力

一方で…

- ・ 歴史的な町並み・建造物がある
(陣屋門、看板建築、常陸国分寺跡)
- ・ 「関東三大まつり」の一つを開催している
(常陸國總社宮例大祭)
- ・ 関東有数の銘醸地である

「通りでよく見かけるのはおじいさんおばあさんか、中高生」(先日のお話から)



- ・ 多世帯の交流を促す
- ・ 地域に愛着を持ってもらう
- ・ 外部の人たちに石岡の魅力を伝えるためにどうすればよいか?



①地酒が飲める
土蔵レストラン&バー

➢ 「石岡の地酒」で乾杯を推進する条例が制定された



地酒が飲めるスタイリッシュな施設があったら？

- ・古民家宿泊施設
- ・土蔵レストラン&バー

②お祭り文化体験で
賑わうスポット

➢ 祭面、夜会巻き、おっしゃい隊などの「常陸國總社宮例大祭」の様々な要素が魅力的



石岡の魅力を発信し、まちにもっと若者を呼び込む場があったら？

- ・カフェ
- ・お祭り体験蔵
- ・土蔵音楽スタジオ

③多世代交流を促進する
複合施設

➢ 周りに学校や塾が多く、学生と子育て親などが集まりやすい環境



図：酒の冷水半径約1km内の塾と学校

自由に交流・勉強・お話できる場があったら？

- ・交流カフェ
- ・蔵シアター
- ・多目的ホール・仕事場



◆ 現状分析（敷地）

①中身は魅力的だが、外観は周りの建築から目立たない

②コンクリート塀があるため、東方向に兼ねの美しさを十分に示せない

③トタンの構造物が歴史的な景観とどううまく調和するか？

④入口の位置が交差点にあり、比較的に危ない



⑤普段未利用？

⑥池を維持するのは難しい可能性？

⑦広い敷地を持つが、効率的に利用されていない

⑧細長い未利用空間の利用？



u 修繕・改良（敷地）

①全体の外観：歴史的な雰囲気を残して、補修工事を行う

②ブロック塀を取壊し、庭園の範囲を拡張させて、離れの用途次第に改造する

③この構造物を改造・移動できるか？ 現有機能を自宅の隣に移す

④自宅の後ろに庭・塀を作って、居住者のプライバシーを確保



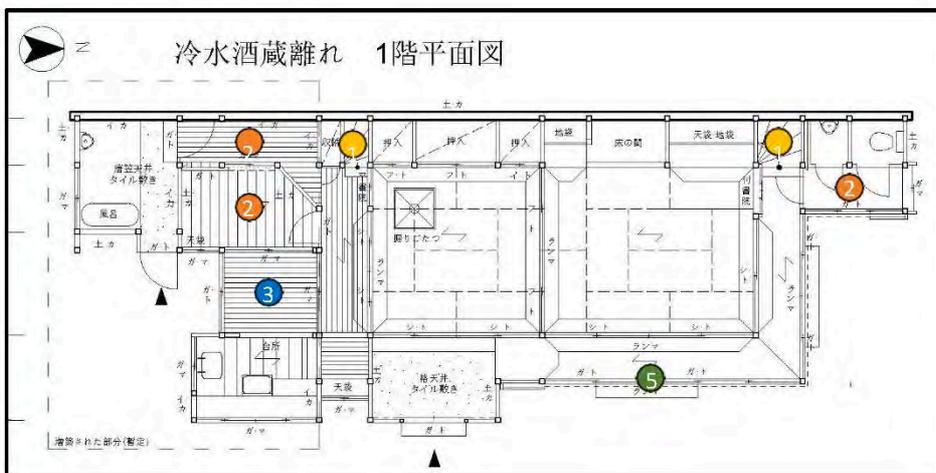
⑤近所の住民にも維持できる花園（優れる景観を作る）

⑥定期イベント開催のためのオープンスペースを整備（外部からの人を招致の可能性）

⑦車の出口として改造して、南の主出入口から車が入る。（動線を分ける）



u 現状分析（離れ 1階）



①階段の安全性が比較的に低い

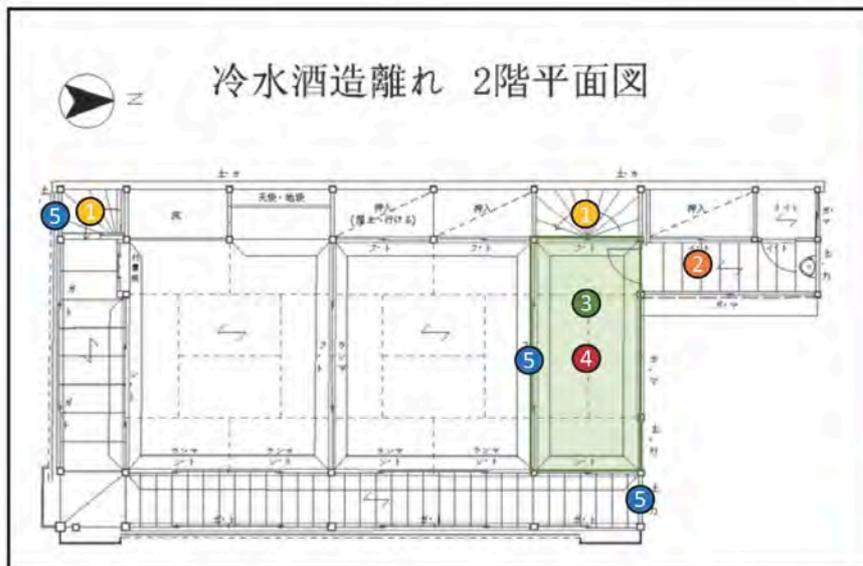
②床が腐食された

③屋根の結合部に穴があるため、雨漏りがひどい

④鴨居が垂下している



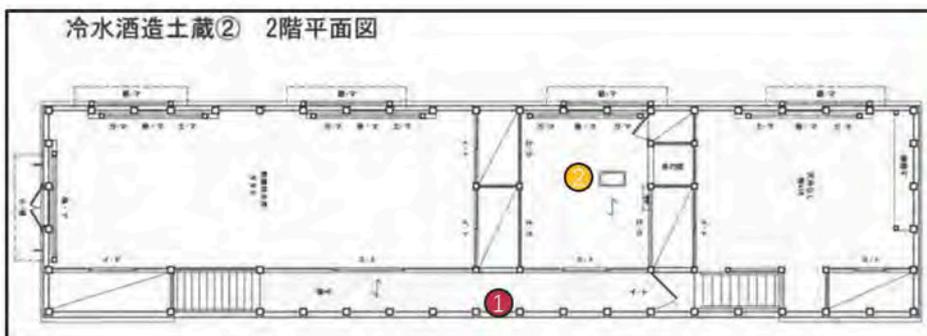
◆ 現状分析（離れ 2階）



- ①階段は暗い
- ②天井・床が腐食された
- ③階段から上がったところは畳のため、階段でスリッパを脱げなければならないのは安全ではない。
- ④ランプが低いため、頭をぶつける可能性がある
- ⑤ふすまと壁はポロポロ



◆ 現状分析（土蔵② 2階）



- ①廊下では倒れている換気ダクトがあり、頭をぶつける可能性がある。
- ②安全性に対する懸念があるため、一階と繋がっている窓を固定するか？



第一班

「レストラン&古民家宿泊施設」の提案

宮下香純 石塚隆幸 李京瑾 蔣銭逸凡



提案のコンセプトとターゲット

「レストラン&古民家宿泊施設」

「日本酒×蔵×古民家」をコンセプトに、冷水酒造のお酒を活かしたカフェ&レストランバーと、離れと蔵の雰囲気を生かした日本庭園が望める古民家宿泊施設の複合施設。

ターゲット層

- 日本酒が好きな方
- 古民家宿泊体験を望む観光客
- 石岡市の地元の方々

運営主体 冷水酒造×民間企業

レトロ&和モダンのシックな宿

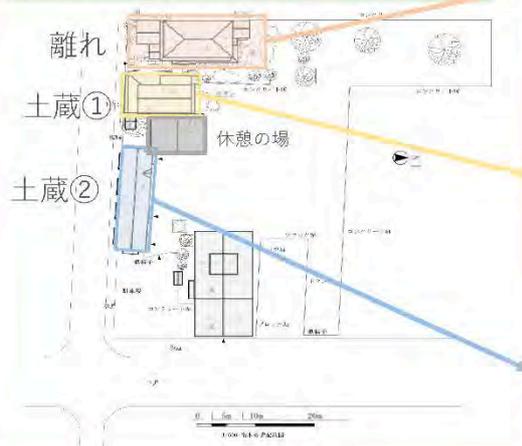
- 「離れ」の持つ、レトロさ、懐かしさといった魅力を残しつつ、モダンにリノベーションして丸々棟貸し。
- 食事は土蔵②にあるレストランを利用。
- ウェルカム日本酒付き。

土蔵ホテル

- 土蔵①の一階と二階を分割した宿泊施設。
- 各階にシャワー室・トイレを設置。
- 一階に娛樂室を設置。
- 「離れ」とは異なる土蔵での独特な宿泊体験を提供。

土蔵レストラン&バー

- 日本酒と酒製品で作った食事を提供。
- 18時まではカフェ、18時以降はレストラン&バー
- 2階は個室とシェアワークスペース（18時まで）
- 独特の酒造土蔵風情の体験、快適な時間を提供。





提案内容「1F 客室 -和モダン-」

1F



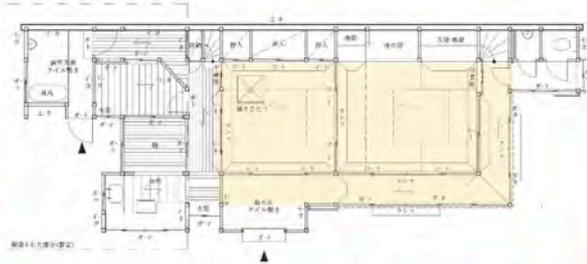
after

https://www.wantedly.com/companies/loof-inc/post_articles/325786

特長

- ・和室二間と縁側を活かした大空間、縁側から望む日本庭園が特長の客室
- ・お風呂も、特長的な唐笠天井を残してリノベーションし、貸し切り風呂に

冷水酒蔵離れ 1階平面図



before

2021年7月撮影



お風呂

<https://www.sagasawakan.com/spa/kashikiri.html>



提案内容「2F 客室 -レトロ&モダン-」

2F



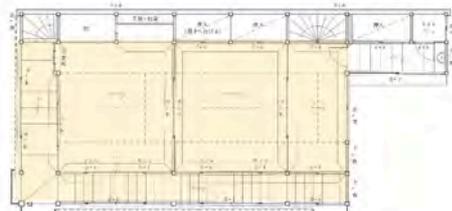
after

<https://kakesta.hamazo.tv/e8435836.html>

特長

- ・明るい陽射しと眺望を活かした空間が特長の客室。畳と板の間両方が楽しめるようにリノベーション。
- ・2Fにベッドルームを配置し、一棟貸の贅沢を味わう。オプションで布団も貸し出し、多人数利用にも対応。

冷水酒造離れ 2階平面図

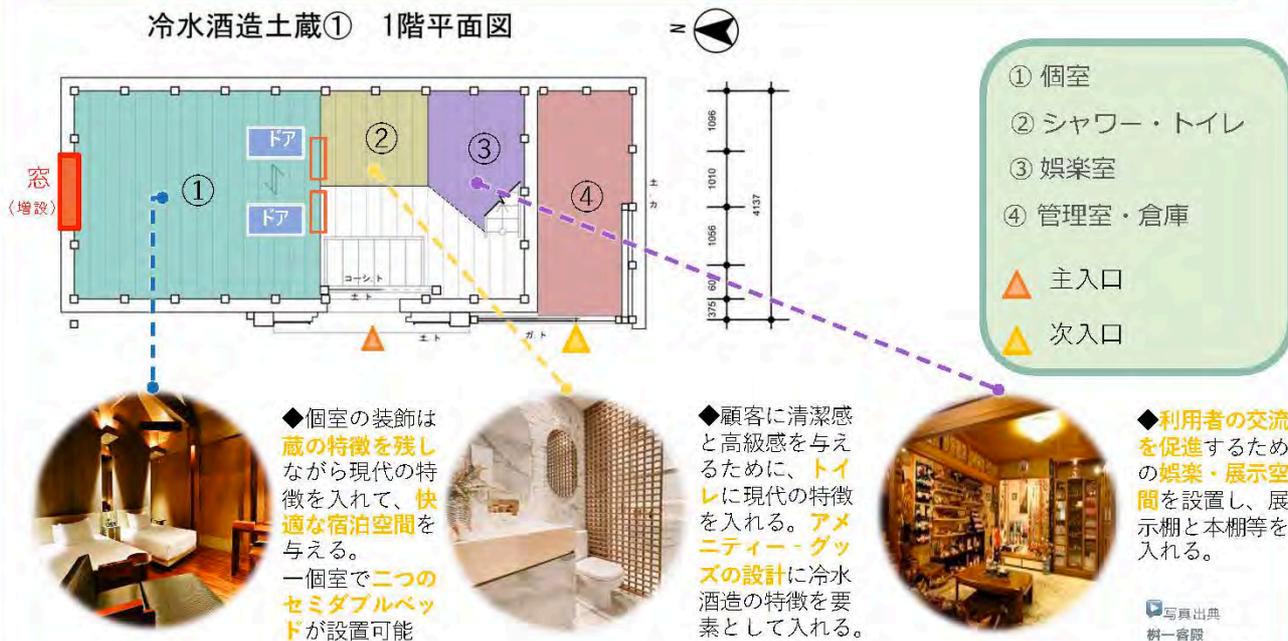


before

2021年7月撮影

提案内容「1F 土蔵① - 個室+交流の場」

冷水酒造土蔵① 1階平面図



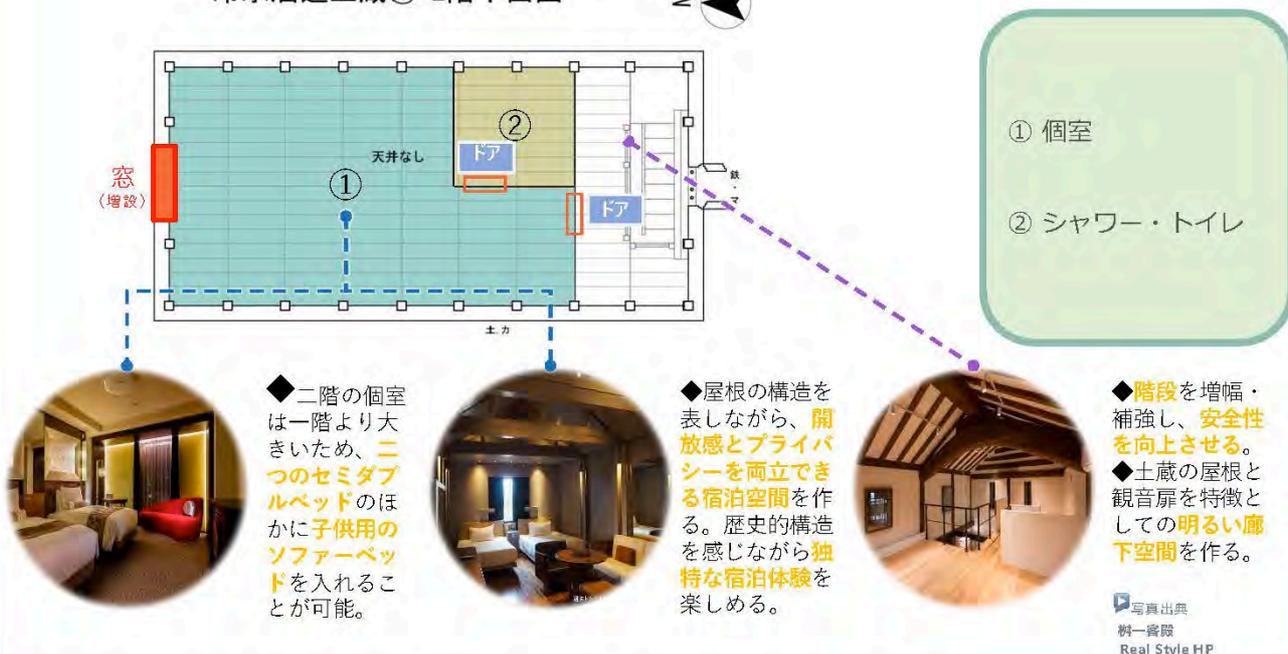
写真出典
樹一會殿
るぶトラベル
真木の會 遊
真木の會 HP

u 一階と二階の間の床板を更新・補強し、強度と防音性を向上させる

冷水酒造再生計画 第一班提案

提案内容「2F 土蔵① - 家族で利用できる個室」

冷水酒造土蔵① 2階平面図



写真出典
樹一會殿
Real Style HP

u 屋根の構造が見える個室、独特な宿泊体験を顧客に与える



提案内容「1F 土蔵② -土蔵レストラン&バー」

冷水酒蔵土蔵② 1階平面図



- ① 展示販売
- ② レストラン
- ③ キッチン&バーカウンター
- ④ トイレ
- ⑤ ダムウェーター



◆正面玄関の展示販売空間
◆冷水酒造の歴史などを展示、酒や関連製品、カフェ屋のお菓子、地域農産物などを販売。



◆各種の酒や酒製品で作られた美食を提供するレストラン。
◆酒造の特色を活かしたメニューを提供する。



◆昼間は主にカフェ(18時以前)、夜(18時以降)は主にバーを経営。
◆利用者は主に近隣住民、観光客、大学生など。

◆1階の採光が弱いので、一部の鉄ドアをガラスドアに変えることも考えられる。



提案内容「1F 土蔵② -土蔵レストラン&バー」

冷水酒蔵土蔵② 2階平面図



- ② レストラン
- ⑤ ダムウェーター
- ⑥ 個室
- ⑦ キッチン&準備室
- ⑧ 物置き&展示販売



◆ダムウェーターを通じて上下階のキッチンを繋いで、食事の迅速な提供を便利にし、レストランの運転効率を高める



◆和風を備えた静かで快適なプライベートスペース。
◆個室希望のお客様に利用できる。



◆引き続き物置きとして使用。
◆可能なら、古家具や手工芸品などの雑貨を展示販売し、空間の雰囲気を作る。

◆独特の酒造土蔵風情を体験し、快適な時間を過ごす。



第二班

「お祭りカフェ・体験施設」の提案

酒巻裕作 森田小百合 李えつき アリミナ・シャキラ



◆ 「お祭りカフェ・体験施設」

コンセプト

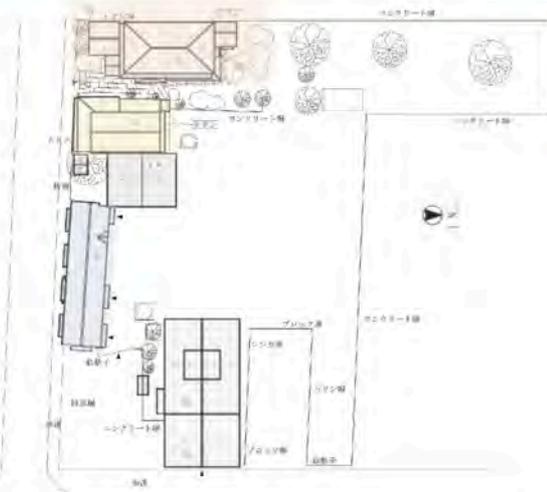
- ・石岡のお祭りを体験できる施設
- ・酒蔵の強みを活かしたカフェ
- ・土蔵でお祭りライブを開催

ターゲット

- ・お祭り文化を体験したい人
- ・着付け体験が好きな女性
- ・カフェ巡りが好きな人

運営者

- ・冷水酒造
- ・石岡市、お祭り事業者



離れ お祭り体験・カフェ

土蔵① 石岡まつり体感蔵

土蔵② 音楽スタジオ





◆ 1F 離れ「カフェ」提案内容

コンセプト

酒蔵の強みを活かした商品開発メニュー
(酒粕の発酵食品を開発し、料理やスイーツを提供)

提供する商品例



飯沼本家 (千葉県)
糀カレー
酒粕ジュース



野口酒造 (東京)
酒粕ラテ



養老酒造 (山梨県)
酒粕で付けた鮭
酒粕風味のみそ汁



大和川酒造 (福島県)
酒粕アイス

1F

冷水酒蔵離れ 1階平面図



◆ 2F 離れ「お祭りコーナー」提案内容

コンセプト

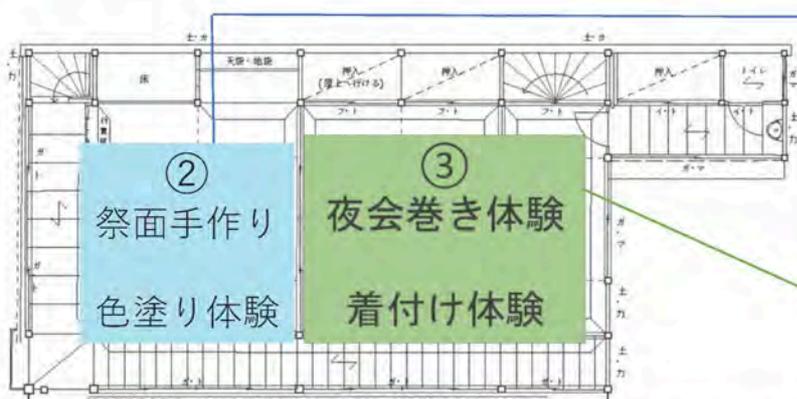
- お祭りの雰囲気を感じられるスペース
- 様々な体験コーナー：祭面手作り、色塗り体験、夜会巻き体験、着付け体験

①お囃子と新和風のBGM

- お祭りコーナーでお囃子やBGMとして流す
- 伝統と現代の融合した音楽をBGMとして流す

2F

冷水酒造離れ 2階平面図



②祭面手作り・色塗り体験



③夜会巻き体験・着付け体験



特長：石岡のお祭りの魅力を発信し、若い人達を呼び込める



◆ 土蔵①「石岡まつり体感蔵」提案内容

コンセプト

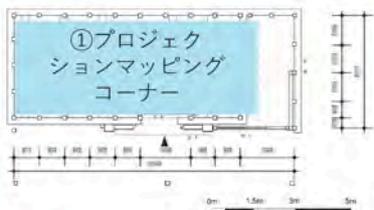
- ・石岡まつりに参加している体感ができる空間
- ・プロジェクションマッピング（お囃子・踊り実演ありの限定日）等を使った、臨場感ある演出



①プロジェクションマッピングと実演のコラボレーションステージ

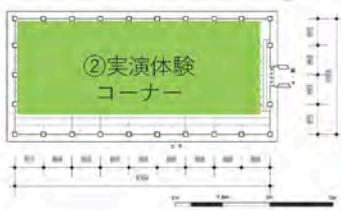
1F

冷水酒造土蔵① 1階平面図



2F

冷水酒造土蔵① 2階平面図



②実演体験に参加

参考：【茨城】新感覚！★土蔵エンターテインメント「ツクノドン」

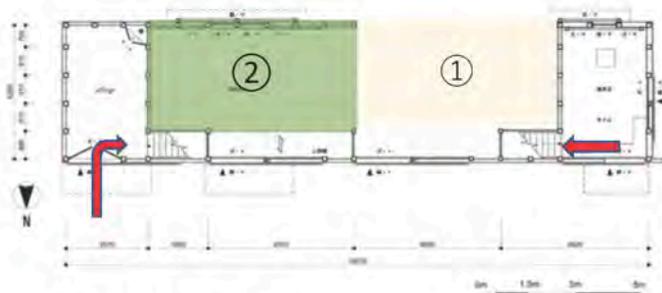
特長：蔵の外部と遮断された空間を生かした、最新テクノロジーと伝統文化のコラボ空間



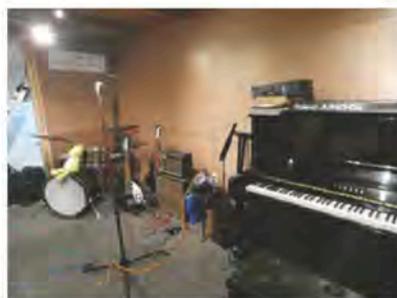
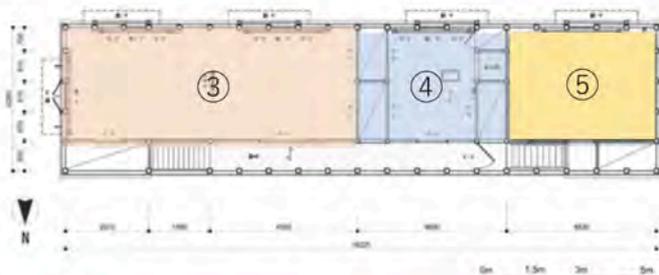
◆ 土蔵②「音楽スタジオ」提案内容

1～2F

冷水酒造土蔵② 1階平面図



冷水酒造土蔵② 2階平面図



参考事例：千葉県長南町 蔵→音楽スタジオ

コンセプト

- ・5つの部屋→5つ少人数 レンタルスタタジオ
- ・受付：カフェ
- ・折り畳みテーブル、いす、スピーカー、マイク及び太鼓など提供可能



第三班

「多世代交流促進を目的とした複合施設」の提案

井尻俊介 江原輝 徐伍華 孫佳辰



提案のコンセプトとターゲット

「多世代交流促進を目的とした複合施設」

- ・「多世代が集まり、地域から愛される交流拠点」をコンセプトに地域に住む人々の交流や助け合いを促進する
- ・階段の上り下りなどが少ない各建築の一階を「交流の空間」とし、二階を「作業の空間」として利用する
- ・庭園や蔵シアターなど子供の遊び場、若者世代の学びと仕事の場、地域の高齢者や子育て中の親同士の交流の空間など多様な形で活用できる

ターゲット層

石岡市の幅広い世代（子育てする親、子供たち、学生（中高生）、高齢者）

運営主体 冷水酒造 × 石岡市 × カフェ事業者

交流カフェと若者の学びの場

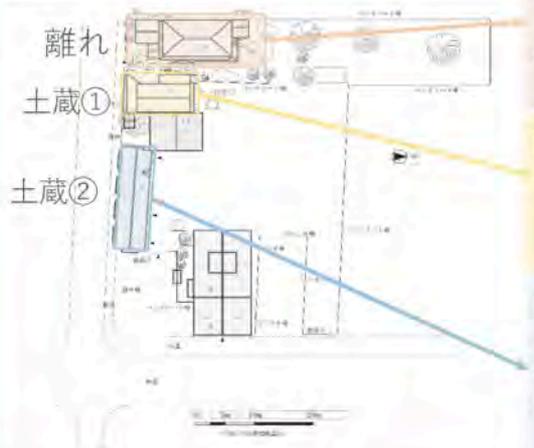
- ・小庭園や縁側が魅力的なカフェでくつろぎながら、遊び・会話・作業など多様な利用を促す。
- ・二階は中高生専用の自習スペース。持ち寄り本棚の設置等、地域一体となって若者の学びを支援する拠点に。

蔵シアター

- ・窓のない蔵の構造を活かしたシアター。高品質な音響設備と大スクリーンを設置することで、家族や友人同士でお気に入りの映像を楽しめる。

多目的ホール・仕事場

- ・土蔵の広いスペースを活かし、開放的な空間を創出
- ・1階は広場と繋がった半屋外型の多目的ホール
- ・2階はコワーキングスペースと会議室を設置することで、利用者の多様なニーズに応える





提案内容「1F 離れ」

多世代交流・遊びのカフェ

- ・ゆとりスペース：カフェ+日本庭園
- ・庭園を味わい多世代交流可能
- ・子供と遊ぶことが可能



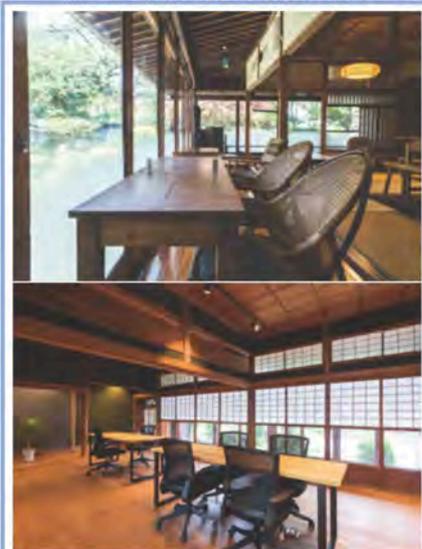
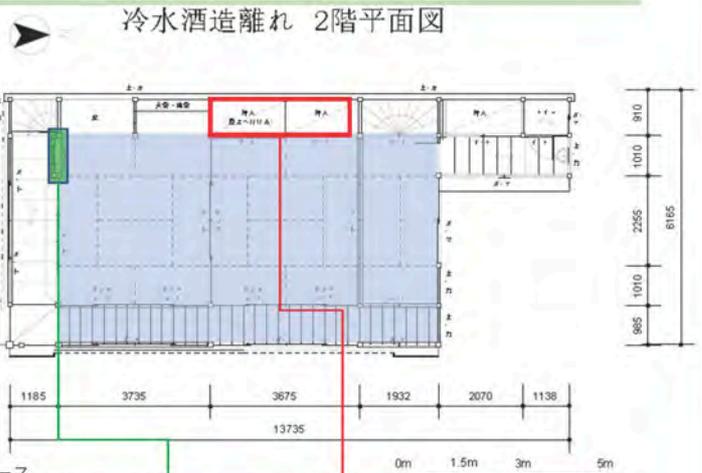
- カフェ
- 日本庭園
- 交流・遊ぶ縁側



提案内容「2F 離れ」

学生向けの自習スペース

- ・対象：中高生
- ・静かでゆとり環境にて勉強可能
- ・後輩の勉強を応援するような空間



- 自習スペース
- 付書院
- 床の間押し入れ

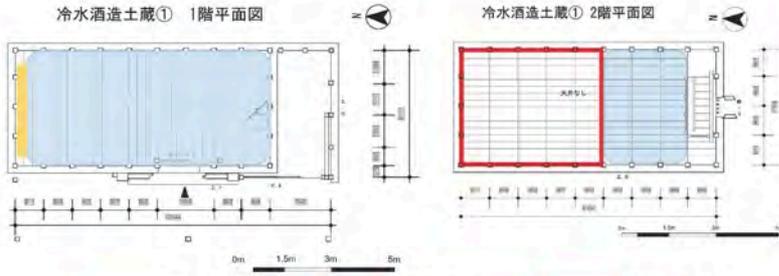




提案内容「1F & 2F 土蔵①」

蔵シアター

・・・窓のない蔵の構造を活かしたシアター



客席スペース スクリーン 吹き抜け
 吹き抜け→大スクリーン、1、2階の鑑賞スペース

導入設備:大スクリーン、高音響の設備を搭載
 利用方法:①時間貸しによる個人的な利用
 (ホームビデオや好きな映画など)
 ②鑑賞イベントの開催(市主催の映画鑑賞会など)



参考事例：記憶の蔵
<http://kamitalabel.blog.fc2.com/blog-entry-244.html>



参考事例：明石商店 シネマスタジオ
<http://akaishi-shouten.com/cinemastudio>



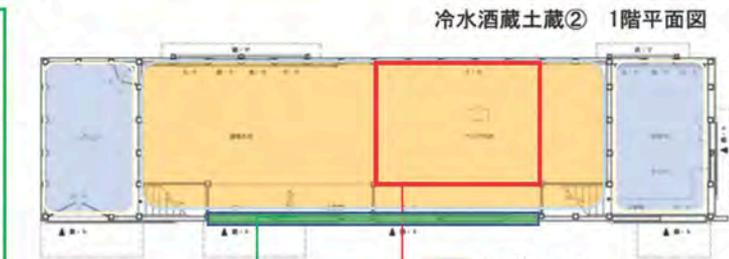
提案内容「1F 土蔵②」

交流を推進する多目的ホール

- ・子育て支援や多世代交流イベントなどにも利用でき、人が集まる空間を創る。
- ・交流しない時は自由に利用できる



ガラス扉で開放感・外部とのつながりを創出



冷水酒蔵土蔵② 1階平面図

多目的ホール
 ストレージルーム&オフィス

平常時にも自由利用・移動できる家具

ベニヤ部分を
 吹き抜けにする



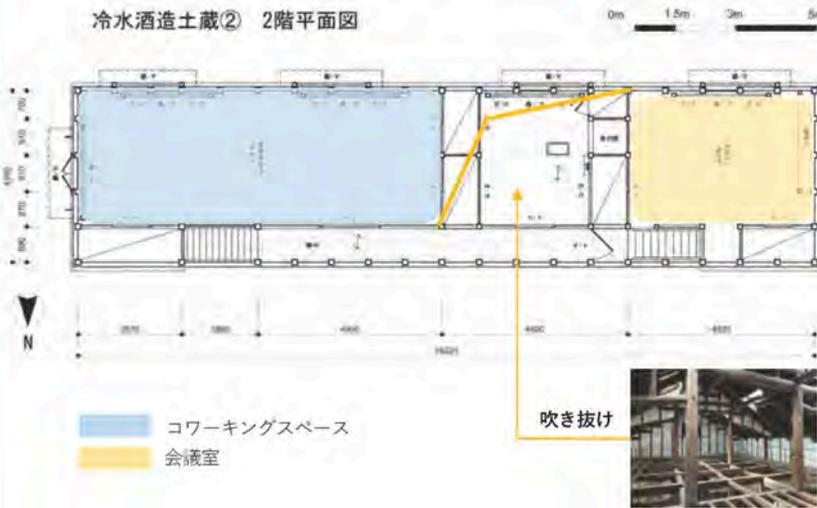


提案内容「2F 土蔵②」

様々なニーズに対応した仕事場

- ・ 多様な主体が利用できるコワーキングスペース
- ・ 会話やミーティングができる部屋貸しの会議室

冷水酒造土蔵② 2階平面図



「築100年の石蔵をリノベーションしたコワーキングスペース「いいオフィス小川町 by NESTo」がオーガニックタウン小川町にオープン！」
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000119.000046744.html>



京創舎Co-working space (北棟)
<https://kyososha.jp/>

2022年度の目標



- ・ 活用策の実現化？：冷水酒蔵離れ・土蔵
- ・ 他の対象の再生・活用案の提案
- ・ 景観重要建造物指定のための実測調査3